

会長メッセージ

会長 栗原 靖之 (横浜国立大学)

令和2年4月に新しい枠組みで幹事会が活動を始め、ほぼ一年を迎えます。年度初めに掲げた目標「会員校から信頼される開かれた強い協議会を作る」を昨年度は実現できたかを考えると、まだ半ばにあり、会員校の皆さんの期待に十分お応えできていないことを最初にお詫び申し上げます。

国立大学を取り巻く社会は急流のように一刻の猶予もなく大きく変化しています。しかし、目を大学人に移してみると、うたかたの夢を見続けているようです。しかし、急流に取り残されたよどみに浮かぶうたかたは停滞することなく変化し続けていることを知らなければなりません。協議会の役割は急流のように変化する国立大学会員校の現実の姿を把握して課題を抽出し、そこに関わる人たちに寄り添いながら現実と理想のギャップを埋めて解決を目指すことです。

～開かれた協議会～

センターに関わる多くの方たちの意見や考え方を協議会活動に反映させたいと考えています。その一つとして昨年度実施した技術系職員に関するアンケート調査で大変有益な情報を収集することができました。組織内のそれぞれの立場での意識と現実のずれや技術職員の高い理想と現実のギャップが明らかになったので、これに対し協議会がどうアクションしていくかを考えています。このアンケートには幹事会や委員会のメンバーに大きな貢献を果たしていただきました。深くお礼申し上げます。今年度も引き続き皆さんの声を集めるためにアンケートを実施しますのでご協力ください。

一方で、協議会運営に多くの方に参画していただくことはまだ実現できていません。協議会を運営しているのは中堅以上の教員と技術系職員です。継続的に協議会を運営し、長い時間をかけてより良いセンターを作り上げるには特に若い力が必要です。今年度はこの部分に手を打

ちたいと思っています。若い方は自分のことに手一杯かもしれませんが、自分の理想将来像を実現するために、是非力を貸してください。

～強い協議会～

強い協議会には二つあります。一つは対外的に影響力を高めること、二つ目は結束力の強い協議会です。まず、対外的には文部科学省や国立大学協会とのパイプの構築です。非常事態宣言などの影響はありましたが、昨年度後半には技術職員のキャリアパスや各大学のセンターの現状に関する意見交換を行うことができました。今年度は、このパイプをさらに強くして政府施策に反映されるよう活動を進めてまいります。結束力は具体的に示すことはできませんが、総会やシンポジウムへの参加状況を見る限り、皆さんの期待の高さを実感しています。今年度は是非対面で総会を横浜で開催したいと願っていますのでご参加ください。

～最後に～

世界は新型コロナウイルス感染症におびえ続けました。新たな変異型の出現はさらに不安とリスクを高めています。このことをメッセージの文頭に書かなかったのには理由があります。それは、何があってもセンターに関わる教職員がすべきことは変わらないからです。もちろん、この対策に多くの方が多くの努力をされていたことに感謝申し上げます。しかし、なによりも高いプライドと使命感を持って、いつもと変わらず自分たちのミッションの実現に努力されたことに深い敬意を表します。新興感染症があろうがなかろうが、センターに関わる教職員はそのミッションを遂行することに全力で当たったという事実こそ、大切なことです。何があっても、我々がやるべきことは変わりません。新年度も多くの困難が待ち受けているはずですが、この先も団結してご協力いただきますようお願いいたします。

副会長（協議会運営担当）  
多田 宏子（岡山大学）

令和2年10月16日 WEB 総会の後、江端新吾 新副会長が幹事会に参加されました。WEB会議とメール審議を交えつつ以下の活動を行いました。

- 1) 技術人材委員会およびアンケート作業部会(WG)が作成したアンケート案を検討・承認し、調査配布先や調査実施期間などの調査要領を決定。
- 2) 「機器分析協議会シンポジウム」について審議し、「研究基盤 EXP02021」企画に参加すること、開催日程と開催方法、シンポジウム実行委員などを決定。また実行委員会から提案されたテーマ案・シンポジウムプログラム案、発表者・パネリスト案などの開催案を検討・調整し承認。
- 3) 協議会 WEB 総会での会則等の改正を受けて、新たに必要となる各種事務手続き事務様式案について検討・承認。銀行口座開設のために必要な会則変更と、「沖縄科学技術大学院大学」の入会承認の2議題を令和3年3月の臨時総会（メール審議）に付すことを決定。
- 4) WEB総会実行委員会とりまとめWGから提出された総会報告書案、シンポジウム実行委員会アンケート調査・分析WGがまとめたアンケート結果報告書案を検討・承認し、3月中に会員校などへ配信することを決定。
- 5) 一般社団法人 国立大学協会にて、栗原会長からアンケート結果を基とした機器共用現場の状況説明を行いました。
- 6) 令和2年度最終の幹事会では、1年間の活動から得られた課題を確認するとともに、令和3年度は改めて「会員校のための協議会」「各委員会の自律的な活動の促進」を全体方針とし、各委員会の活動案、外部組織への働きかけ案等の具体的な活動についてを協議。また令和3年度総会および会費事務等の予定を確認。

会員の皆様には、今後の協議会活動にますますご注目いただき、積極的なご意見・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 事業検討委員会

委員長 森本 稔（鳥取大学）

今回は事業検討委員長としてではなく、シンポジウム実行委員会総括担当としてシンポジウムの開催報告をいたします。

開催日時：2021年1月25日（月）  
13時00分～15時30分

開催形式：Zoom ウェビナー

参加者数：250名

プログラム：

シンポジウム趣旨説明  
技術職員アンケート報告  
パネルディスカッション  
クロージング

実行委員（敬称略）

栗原（委員長）、森本（統括）、多田（企画）、江端（企画）、野口（広報）、岡（アンケート）、近江（アンケート）、榊（アンケート）、松本（広報）、境（企画）、戸所（アンケート）、永野（企画）、林（アンケート）、古川（広報）、吉原（アンケート）、真木（アンケート）、森（企画）

アンケート報告は林先生と岡さんとの掛け合いでの斬新なスタイルで行われました。前日に打ち合わせをされただけのことですが、とてもそのようには思えないほど息がっていました。もちろん、単なる結果報告ではなく定量的な分析もされており、これぞ機器・分析センター協議会の報告と言えるものでした。パネルディスカッションでは栗原会長をファシリテーターに、執行部として岡山大学の那須理事、教員として境先生、林先生、技術職員として岡さん、森さんが登壇（？）し、技術職員が活躍する環境について先のアンケートに基づき議論がなされました。それぞれの立場からの意見、アイデアも出され、予定時間をはるかに超えましたが、それでもまだ足りなさを感じるほどの熱い議論がなされました。

今回のアンケート結果及びパネルディスカッションでの議論を皆様のセンター運営に活かしていただければ幸いです。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございます。

## 広報委員会

委員長 野口 恵一 (東京農工大学)

令和2年度 WEB 総会后、広報委員会のメンバーは、以下のような分担で、機器・分析センター協議会シンポジウム開催に関わる活動を行いました。

アンケート実施・解析：林、真木  
シンポジウム企画：境  
シンポジウム実施運営：古川  
広報全般：野口

なお、清委員は、研究イノベーション分科会幹事（広報）として、「研究基盤 EXPO 2021」全体の広報活動を担当されておりました。

メーリングリストとウェブサイトを通じて以下の情報提供を行いました。

**2020. 11. 18** アンケート「技術職員が最大の成果を生み出す環境とは」 協力依頼

**2020. 12. 2** 協議会シンポジウム開催案内

**2020. 12. 17** 令和2年度第三次補正予算（研究施設・設備・機器のリモート化・スマート化）公募情報

**2021. 1. 5** 「第7回設備サポートセンター整備事業シンポジウム」（富山大学）参加登録案内

**2021. 1. 8** 協議会シンポジウム参加登録案内

**2021. 3. 12** 2020年度 国立大学法人機器・分析センター協議会総会の報告書を公開

**2021. 3. 13** 令和2年度国立大学法人機器・分析センター協議会シンポジウムで報告した「令和2年度 技術職員の職務環境・実態調査結果」を公開

**2021. 3. 18** コアファシリティ構築支援プログラム公募情報

**2021. 3. 26** 令和2年度コアファシリティ構築支援プログラム採択5機関に関するリンク（研究イノベーション分科会ウェブサイト）を紹介

令和3年度には、ウェブサイトのリニューアルを行い、会員の皆様に役に立つ情報をより多く発信したいと考えております。協議会ウェブサイトのトップページにご意見・ご要望をお寄せ頂くフォームも用意しておりますので、会員の皆様が知りたい情報などに関しても、是非、お知らせ下さい。

## 技術人材委員会

委員長 岡 征子 (北海道大学)

新年度が始まりました。新たな技術職員仲間を迎え入れ、気持ち新たにスタートしたセンターもあろうかと思えます。

さて、今回は第2号のニューズレター発行以降の委員会活動を振り返ります。

昨年10月のWEB総会において名称変更を承認いただき、翌11月には技術職員ならびに教員を対象として「技術職員が最大の成果を生み出す環境」を考えるアンケートを実施。その解析結果を、今年1月のシンポジウムにて報告させていただきました。無事に企画、実施、報告まで終えられたことに安堵しております。お忙しいところ回答にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

今回のアンケートには、「各センター等の一構成員としての技術職員（非正規職員を含む）と教員の連携やチームワークが技術職員の活躍促進、ひいては各センター業務活性化の鍵を握るのではないかと考え、その両者の考え方や働き方の一致度や相違度を調査することで、支援組織の主戦力である技術職員が最大の成果を生み出す環境とは何かというものを紐解いていきたい」という思いが込められています。結果は現在、センター協議会HPに掲載されていますので是非ご覧ください。



〈シンポジウム発表資料より〉

〈HP掲載報告書〉

なお、今回のアンケートは、アンケートWG、シンポジウム実行委員会アンケート担当の皆様との共同作業で進めてまいりました事を申し添えます。

先日公開された第6期科学技術・イノベーション基本計画には、技術職員を含む高度な専門職人材に関する記述が掲載されました。新年度も技術人材に関する課題を整理しながら活動していきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

## 臨時総会（メール審議）

2021年3月17日から26日の期間に実施いたしました臨時総会（メール審議）にご協力頂きありがとうございました。締切までに44会員からの回答があり、以下の2つの議題について、承認頂きました。

【議案1】会則の一部改定について  
協議会の所在地に関する記述を会則に追加

【議案2】会員の加入について  
沖縄科学技術大学院大学（OIST）機器分析セクションの正会員としての加入

OISTは、内閣府の政策に基づき設置された学校法人であり、国立大学法人とは異なるため、2018年の岩手での総会からオブザーバーとして参加されておりました。今回の臨時総会で議案2を承認頂きましたので、2021年度より正式な会員として協議会に参加頂くことになりました。

本協議会への窓口を担当されている山内一夫先生は、OISTの研究支援ディビジョンの一部である機器分析セクションのセクションリーダーをされており、OISTに着任される前は、分析装置メーカーや国立大学でのご研究経験に加え（超微量用固体NMRプローブの開発研究等をされています）、サウジアラビアやカザフスタンの大学での教育や研究のご経験もお持ちです。OISTにご着任後、共用設備の活用を促進するために、大学連携研究設備ネットワークや本協議会の活動に関心を持たれ、参加について検討されておりました。

OISTの機器分析セクションでは、8台の高分解能MS、3台のNMR、9台のフローサイトメータなど計40台の大型の全学共通分析機器を4人のテクニカルスタッフで管理運営されています（<https://groups.oist.jp/ias>）。また、現在、学内ユーザーのみならず、外部利用者を受け入れるプロジェクトも整備されているようです。今後、各大学の機器分析センター/施設が国際化を進めていく中で、OISTとの連携は重要になるように思います。

## 会員登録と会費納入について

2020年度総会での会則改定に伴い、本協議会の会員登録について、各会員（センター）の継

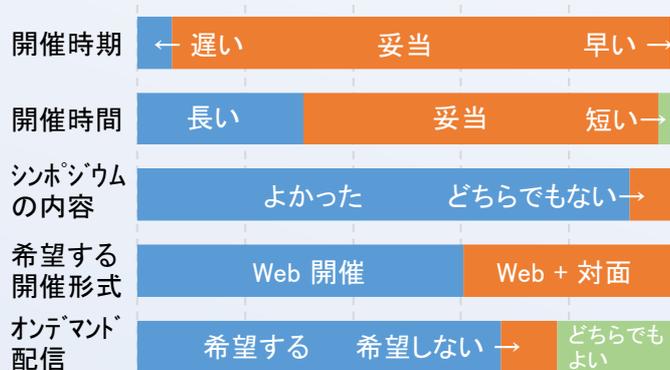
続確認を行うこととしています。ご連絡が遅くなり申し訳ありませんが、近日中に各センターのご担当者宛てに、幹事会継続確認のご案内をお送りしますので、ご回答をお願いします。

なお今年度の会費の納入については、本協議会の口座開設手続きが済み次第、改めてご連絡差し上げます。

## 協議会シンポジウムに関するアンケート

2021年1月25日（月）開催の協議会シンポジウムの終了時に参加者の皆様にお尋ねしたアンケートの集計結果をご報告します（回答者 172名）。

開催時期やシンポジウムの内容に関しては、概ね好評だったように思います。シンポジウムの開催時間については、予定時間を大幅に超過したこともあり、3割程度の参加者が「長い」と感じられたようです。議論が熱くなった方がおもしろいシンポジウムになりますので、時間に余裕をもったプログラム構成を検討したいと思います。2021年度も皆様の関心が高いテーマについて議論したいと思いますので、協議会までご意見ご要望をお知らせください。



協議会シンポジウム参加者アンケート結果

### 国立大学法人 機器・分析センター協議会 ニュースレター No.3

発行日：2021年4月14日

編集：国立大学法人 機器・分析センター協議会  
広報委員会

発行：国立大学法人 機器・分析センター協議会

連絡先：kikikyogikai@gmail.com

Website: <https://sites.google.com/site/kikikyogikai/>

メーリングリスト：kiki\_ml@googlegroups.com